

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇PVC News No. 79を発行します

塩化ビニル環境対策協議会

## ■随想

◇マリ共和国旅行記（2）－蚊帳の中－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

## ■お知らせ

○「エコプロダクツ2011」出展のご案内

## ■編集後記

## ■トピックス

◇PVC News No. 79を発行します

塩化ビニル環境対策協議会

12月20日に塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)はPVC News No.79を発行します。今号の視点・有識者に聞くのコーナーでは「塩ビものづくりコンテスト2011」で後援を頂いたJIDA((社)日本インダストリアルデザイナー協会)の浅香理事長にインタビューし、ものづくりとデザイン、国によって違うデザインのDNAなどを教えて頂きました。

No. 79号の構成は以下の通りです。

## ○トップニュース

「プラスチックは楽しい」VECの出前授業レポート

環境教育支援活動、今年も好調－東京都世田谷区・喜多見中学校での授業から

## ○視点・有識者に聞く

「ものづくり」とインダストリアルデザイン

(社)日本インダストリアルデザイナー協会 理事長 浅香 嵩 氏

## ○リサイクルの現場から

大震災、復興への道－災害廃棄物リサイクルで仙台市支援

東北大学・吉岡 敏明教授に聞く「廃棄物資源循環学会」タスクチームの活動

## ○インフォメーション1

華やかにカラフルに。塩ビ&デザインのコラボが生み出す新たな世界

上田安子服飾専門学校の学生が塩ビのファスナーケースをデザイン

## ○インフォメーション2

森の分断から、小さな命を守る「アニマルパスウェイ」

樹上性動物の「生活の場」回復へ、建設業界とNGOが連携。塩ビもひと役

## ○塩ビ最前線

波乱万丈「ビニール傘」ものがたり

品質と機能性を求め続ける、オリジネーター・ホワイトローズ(株)の挑戦

○広報だより

3年に一度開催される「国際プラスチックフェア」で「塩ビものづくりコンテスト」の入賞作品を紹介 他

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

「トップニュース」はVECが環境教育支援活動の一環として進めている出前授業、全国各地から「出前の注文」が相次いでいます。今回は世田谷区立喜多見中学校での授業を取り上げました。授業ではプラスチックや環境についてわかりやすく解き明かし、また、種々のプラスチックの比重の違いを実験し科学の楽しさを体感してもらっていることなどの授業風景を紹介しています。

「リサイクルの現場から」では、東日本大震災で復興を進める中で大きな関門になっているのがガレキの処理、廃棄物資源循環学会の「災害廃棄物対策・復興タスクチーム」の幹事として支援活動に取り組んでおられる東北大学の吉岡敏明教授に取材しました。先生はモデル事例として注目されるリサイクルを重点とした仙台市の取り組みに協力し、「廃棄物分別・処理戦略」のマニュアル化を進められています。混合の状態のガレキを放置したままでは、誰も持っていけないので復興の妨げになる。結果的に分別しリサイクルする方が早く処理ができ、そして災害廃棄物の5割程度は再資源化できるとのお話でした。

「インフォメーション 1」は、上田安子服飾専門学校と産業界とのコラボで生まれたファスナーケース、学生たちが一つ一つデザインしたイラストやファスナー、素材の色の選択など、世界に一つしかないファスナーバッグづくりを紹介しました。

「インフォメーション 2」は前号に続いてヤマネ。道路の建設などによって森が分断されると、リスやヤマネたちなど樹上性動物は餌が取れない、繁殖機会が減少するなど生態系を損なってしまいます。その生活の場所を回復するために考えられたのが「アニマルパスウェイ」、動物たちのつり橋です。塩ビ管が電源・通信ケーブルの保護に使われていますが、そのほかの効用も。

「塩ビ最前線」はビニール傘のものがたり。紹介するのは、田原町にあるホワイトローズ(株)。ビニール傘を発明しても日本で斬新過ぎて売れず、アメリカでブームになり、輸出からのスタート。その後生産が中国に移り、日本からの輸出はストップ。低価格の傘が輸入される時代を迎えました。現在は、顔が見える透明な丈夫な傘がほしいとの依頼を受け製作し、議員の間で普及している選挙用の雨傘など品質と機能性を求めた高級化路線に進化中。

是非ご覧下さい。

また、現在開催中の「エコプロダクツ展」で、ご紹介したものを実際にご覧になれます。

『PVCニュース』はJPECのホームページから、最新号、バックナンバー共にご覧頂けます。(No.79は20日以降掲載) <http://www.pvc.or.jp/>  
ご講読を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。 [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

## ■ 随想

### ◇マリ共和国旅行記（２）－蚊帳の中－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

第1回で書きましたが、「マリ共和国」は国土の大半がサハラ砂漠で占められており、乾燥した地域が広がっています。そのような乾燥した地域であっても、ギニアのTembakoundaを水源に、西アフリカ9か国、4,180Kmを流れ、ナイジェリアでギニア湾に注ぎ込むニジェール川のおかげで、乾燥しているとはいえ、かなり緑も豊富です。

しかし、この地域で水があるということは、ハマダラ蚊が多い＝マラリアの罹患率が高いということでもあります。何代にも亘り、マラリアに罹り、それに打ち勝って生き延びてきた子孫である現在のマリ共和国の人たちもマラリアには勝てません。はっきりとした統計はないのですが、マリ共和国国内で病院に来る患者さんの80%がマラリア患者だと言われています。

マラリア、治療薬はあるが効果的な予防薬はないという厄介な病気です。また、一度かかっても免疫はできず、マラリアの原因である“マラリア原虫”を体内に持っているハマダラ蚊に刺されるとほぼ確実に発症します。かといって、全てのハマダラ蚊がマラリア原虫を体内に持っているわけでもありません。

蚊は溜り水があるとそこに卵を産み付け、増殖するという特徴があります。このため、ニジェール川そのものが蚊の産卵場所になるわけではありません。本当に水が少ないサハラ砂漠では蚊はいません。川が流れ、水が豊富な所は安心して水が使えます。ところが、下水が発達していないのです。これが蚊の発生の原因となります。

首都「バマコ」も多くの下水は所謂「ドブ」に頼っています。ところが、この「ドブ」はゴミ捨て場でもあり、あちらこちらで詰まって溢れ出しています。ゴミで栄養が豊富な水が詰まって溜まっている。蚊にとってはこんなに素晴らしい場所はありません＼(^O^)/

街中は、朝晩は暑さを嫌う蚊が舞い飛び、日中はハエがブンブン。この衛生状態では病気にならない方が不思議です。マリ共和国で仕事をしたことのある医師の話では、「マリ共和国ではお腹の調子が悪いのが普通」だそうです（^\_^;オイオイ

当然、マリ共和国の人もマラリアに対する予防はします。夜になるとあちらこちらで“蚊取り線香”を焚き始めます。寝るときは“蚊帳”を使います。しかし、ここはアフリカ。蚊は蚊取り線香の煙の中を悠々と飛んでいます。

「アフリカで売っている蚊取り線香は外国製の粗悪品。日本製の蚊取り線香を持って行けばバッチリさ」という人もいますが、その日本製蚊取り線香の煙の中を、いま目の前で蚊が元気に横切って行きました (>\_<)

電池式の日本製電気蚊取りも持参しています。これを身に着けていると、ある程度、蚊が避けてくれるようではありますが、コマースのように蚊がボタボタ落ちることは決してありません。

日本製、医薬品指定の虫除けスプレー。これもアフリカでの効果のほどは如何なものか

と。安全重視のため、虫除け成分であるディートは12%しか配合されておらず、生命力に溢れたアフリカの蚊にはほとんど効きません。ちなみに、マリ共和国で販売されているヨーロッパ製虫除けスプレーにはディートが30%以上配合されています。マラリアに罹患するリスクと、虫除けスプレーによる健康被害。どちらを取るか、悩むところです。

マラリアが普通の病気になっているマリ共和国（他の西アフリカ諸国も同様ですが）、一生、効果があるのかないのかはっきりしない予防薬を飲み続けるわけにはいきませんから、罹患したら治療すればいいと言うのが一般的な考え方です。

マラリア治療薬は薬局に行けば処方箋なしで誰でも購入できます。薬によって、或いは罹患したマラリアの種類によっても異なりますが、基本は1箱単位の販売です。しかし、人によっては、懐具合もあるでしょうし、体の具合も異なります。このため、ほとんどの薬局ではばら売りもしています。

薬局で見ていると

患者「マラリア治療薬をくれ」

薬剤師「どんな症状？」

患者「あ～たら、こ～たら」

薬剤師「それならこの治療薬だ。〇〇フランだよ」

患者「マラリアで体調が悪くて仕事ができないからそんなに払えないよ」

薬剤師「ばら売りなら1回分〇〇フラン。1週間後に2回目を飲まなくてははいけないけど、2～3日で良くなるから、それから〇〇フラン稼げばいいよ」

というような売り方をしていました（これだけ理解するのに、Bambara語→フランス語→英語と、2人の通訳が必要でした）。

マラリアは症状が出てから72時間以内に治療を開始しないと重篤化し、命にかかわる病気です。国連の世界保健機関（WHO）でもマラリア撲滅のため、予防薬やワクチンの開発を進めていますが、その前に、ドブさらい、下水管の埋設、ごみ収集の徹底、道路の整備により穴を埋め、溜り水が出来にくくする、これを徹底すれば、かなりマラリア罹患率は下がると思います。

ちなみに、私は、マラリア予防薬の服用、電気蚊取り、虫除けスプレー、蚊帳を使用しています（蚊取り線香は火災の危険性もあるため、ハマダラ蚊に効果があるか、試験的に使用するだけです）。



マリ共和国で一般的な蚊帳

マリ共和国で夜になり、一番安心できる場所。  
それは蚊帳の中です。

(つづく)

前回：[「マリ共和国旅行記」\(1\) -マリ共和国ってどんな国-](#)

## ■ お知らせ

### ○「エコプロダクツ2011」出展のご案内

「エコプロダクツ2011」が下記の要領で開催されています。  
塩化ビニル環境対策協議会／塩ビ工業・環境協会にて、「社会のインフラ・ライフを支える PVC、地球環境・自然保護に貢献する PVC、新しい可能性にチャレンジする PVC」をテーマとして出展しています。

塩ビ製品展示、パネル説明、などで、塩ビへのご理解を深めていただきたいと思います。

- ・日 時 : 2011年12月15日(木)～17日(土)  
10:00～18:00(最終日のみ17:00まで)
- ・場 所 : 東京ビッグサイト(東1～6ホール)  
(VEC小間番号:東3ホール、3-012)
- ・主 催 : (社)産業環境管理協会、日本経済新聞社
- ・入場料 : 無料
- ・[エコプロダクツ2011](#)



(C)エコプロダクツ2011

## ■ 編集後記

昼食にぶらっと歩く茅場町周辺の道路にはスズカケノキ別名プラタナスの並木が多く植えられています。ここ中央区は街の緑化に熱心で、アスファルトやコンクリートに覆われた土地に少しでも緑を増やそうと頑張っています。2年前の調査では街路樹約6500本の内、プラタナスが1180本と一番多いそうです。良く見るとすくすくと大きく育てて枝を一杯に広げている木もあれば、大きなビルの陰になって小さくひ弱に見える木もあります。植える時に同じ背丈でも、周りの環境と手入れで大きく変わるものなのではないでしょうか？プラタナスの枯葉舞う冬の道で・・・♪。そんな冬路を風に吹かれて口ずさみながら年の瀬を歩いています。(円行)



## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)